

- 1 日 時 2024年（令和6年）10月30日（水）5校時
- 2 学年・組 1年3組 生徒数31名（男子17名 女子14名）
- 3 単元名（題材） 筋道を立てて、話題や展開を捉えて話し合おう
- 4 単元（題材）について

（1）単元観

本単元は、学習指導要領1学年の目標（2）「筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。」に基づき、「A話すこと・聞くこと」の指導事項オ「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。」を受けて設定した。

本教材「話題や展開を捉えて話し合おう」は、よりよい話し合いをするために、話し合いの展開を捉えて発言することや参加者の意見を整理することを学ぶ単元である。話し合いは、学び合いに必要な活動である。他者と話し合うことで、自分にはない新たな視点に気づき、共同して課題を解決することができる。よりよい話し合いをするためには、話し合いの展開を捉えながら状況に応じて発言しなければならない。また、それぞれの意見を整理しながら話し合いを進めて、集団としての考えをまとめることも必要である。普段は学び合いの手段として行う話し合いを本教材では学びの対象として捉えることで、話し合いの力を伸ばしたい。

（2）生徒観

表：2024年（令和6年）度標準学力調査中学校1年国語の本学級の結果（話す聞くの設問）

問題番号	問題の内容	出題のねらい	正答率	目標値
1（1）	インタビューの内容を聞き取る	話の内容を捉えている	76.7	75.0
1（2）		意図に応じて、質問を工夫している	66.7	55.0
1（3）		意図に応じて、話の内容を捉え、適切な質問をしている	40.0	50.0

表は本学級生徒の標準学力調査の結果である。（1）と（2）の問題は目標値を超える正答率である。しかし（3）の正答率は4割であり、目標値には達していない。本学級は、相手の発言の意図や話の内容を捉えた上で、適切な発言を考えることは苦手である。よりよい話し合いをするためには、話し合いの展開を踏まえて、どのように反応や発言をするのかなど、その場の状況に応じた振る舞いが必要である。話し合い活動を行う前に、よい話し合いに必要なことを焦点化して生徒に示すことで、話し合いの展開を踏まえた発言を意識できるようにしたい。

(3) 指導観

指導に当たっては次の3点に重点を置く。

① 話し合い活動のテーマについて

◇話し合いテーマ

あなたたちの班は豪華客船に乗って、世界一周の旅をしている。しかし旅の途中、嵐に巻き込まれてしまい、救命ボートに乗って近くの無人島へ避難することになった。今にも沈没しそうな船から3つ道具を持ち出せるとしたら、あなたたちは何を選ぶか。

[持ち出せるもののリスト]

・ナイフとフォーク ・マッチ ・鍋 ・斧 ・ロープ ・海図 ・テント ・毛布 ・時計
・ラジオ ・薬 ・裁縫道具 ・カメラ ・鉛筆と紙 ・望遠鏡 ・釣り竿

◇話し合いの役割

(司 会)話し合いの進行をする・参加者の発言を促す・話題がそれたら修正する
(参加者)話題にそった意見をだしたり共通点などに着目して意見を整理したりする
(観 客)話し合いを見学し、気づきを記入する

思考することや発言が苦手な生徒でも、考えやすく取り組みやすい課題を設定した。この話し合い活動は無人島に到着した後、何をを目指すのかによって話し合いの展開が変わる。つまり無人島に到着した後、生き残るための道具を選ぶのか、それとも島から脱出するための道具を選ぶのかである。生徒が発言するときには、自分たちの班はどちらの観点で話し合いが進んでいるのかを意識させたい。また今回の話し合い活動の目的は〈それぞれの意見を整理しながら話し合い、救命ボートに持ち込む道具を3つ決める〉ことである。話し合い活動を行う準備として、前時では生徒が自分の意見とその根拠を考える活動を設定する。自分の意見をもって話し合いに臨むことで、多様な意見が交わされる話し合い活動を目指す。さらに話し合いの役割を設定し、生徒が主体的に参加し、円滑に進行する話し合いを目指す。観客は話し合いを見学することで、意見の整理の仕方や生徒の発言を客観的に見て、よい話し合いについての考えを深めたい。

② 単元ゴールについて

単元ゴール：よい話し合いをするためにはどのように話し合いを進めたらよいのかを考える。単元ゴールを設定することで、本単元で目指す姿を生徒に意識させたい。本単元では話し合いの実践を通して、よい話し合いについて考えることをねらいとしている。救命ボートに持ち込むものについて話し合うことが学習のゴールとならないよう、注意して指導したい。

③ よりよい話し合いをするために大切なことを焦点化する

よりよい話し合いをするために大切なことを、次の3つに焦点化して指導する。

1. 話し合いの話題を意識して、展開に沿って話し合うこと
2. それぞれの意見の共通点や相違点を整理しながら話すこと
3. 複数の意見を結び付けて、結論をまとめること

5 単元（題材）の目標

（１）意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

（知識及び技能 （２）情報の扱い方に関する事項ア）

（２）話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。

（思考力，判断力，表現力等 ア話すこと・聞くことオ）

（３）言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

（学びに向かう力，人間性等）

6 単元（教材）の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。（（２）ア）	○ 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。（Ａ話す聞く（１）オ）	○ 粘り強く話題を捉えながら話し合い、学習の見通しをもって話し合いをしようとしている。

7 指導と評価の計画（４時間）

時	主な学習活動（○）・手立て（●）・ICT（★）	知	思	態	評価方法等
1	○単元の見通しを立てる ○よい話し合いとはどのようなものかを考える ●今までに行ってきた話し合いの経験をもとにする				
2	○話し合いのテーマと目的を確認する テーマ：救命ボートに３つ道具を持ち込むとしたら？ 目的：意見を整理しながら話し合い、救命ボートに持ち込む道具を３つ決める ○〔話し合いの準備〕 テーマに対する自分の意見と根拠を考える 司会者を決める ●ワークシート（自分の意見をまとめる）	◎			（ワークシート）
3 （本時）	○〔話し合いの実践〕 活動の流れを説明する 班ごとに話し合いを行う ●手引きプリント「話し合いの流れ」 ●話し合い観客シート ★ロイロノート（共有ノート）で意見を整理する		○	◎	（行動観察） （行動観察） （単元シート）
4	○〔話し合いをふりかえる〕 自分たちの班の話し合いについてふりかえる よい話し合いとは何かについて改めて考える ●ワークシート ●話し合い観客シート ★ロイロノート（共有ノート）を見て話し合いをふりかえる		◎		（ワークシート）

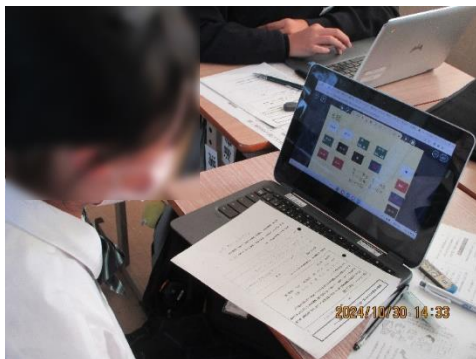
8 本時の展開（3時間目）

学習内容	指導上の留意点	評価基準と方法
○めあてを確認する		
めあて：意見を整理しながら話し合い、救命ボートに持ち込む3つの道具を決めることができる。		
○今回の話し合いのテーマと目的を確認する	テーマ：救命ボートに3つ道具を持ち込むとしたら？ 目 的：意見を整理しながら話し合い、救命ボートに持ち込む道具を3つ決める	
○話し合いの流れを確認する	◆話し合いは司会・参加者・観客に役割を分けて行う 司会：話し合いの進行をする 参加者：意見を出したりまとめたりする 観客：話し合いの様子を観察・記録する ◆話し合いは15分間とする ◆前半と後半の二部に分けて行う 前半（話し合い）1・4・5班 （観 客）2・3・6班 後半（話し合い）2・3・6班 （観 客）1・4・5班	
2班 4班 6班 1班 3班 5班 教卓 黒板		
○話し合いを行う	◆司会を中心に話し合いを行う ◆ロイロノート（共有ノート）を活用して話し合いで出た意見を整理する ★ICTの活用場面〈ロイロノート〉 話し合いで出た意見をロイロノートの共有ノートを使って整理する ◆話し合いが進まない場合は手引きを参考にする ◆観客は話し合いを観察し気づきを記入する	〔思判表①〕（行動観察） 話題を捉えながら話し合い、共通点や相違点に着目してそれぞれの意見をまとめる発言しているかを確認する。 ※4時間目のワークシートの内容を合わせて評価する
○各班が話し合った結果（結論）を報告する	◆班で意見がまとまらなかった場合は、どのような話し合いをしたかを報告する	〔主学態①〕（行動観察） ここでは話題を捉えながら話し合い、班の意見を整理したり考えをまとめたりする発言をしようとしているかを確認する ※単元シートの記述を合わせて評価する
○単元シートにふりかえりを記入する		

9 授業の様子 (ICT 活用場面)

①生徒は、司会者・参加者・観客に分かれて、話し合いを行っている。

話し合いにはロイロノート（共有ノート）を活用し、出た意見を整理している。



②教師がモニター画面に話し合いの記録（ロイロノートの共有ノート）を映し、全体共有をしている。



正解のない「問い」へ果敢に挑戦し思考する生徒

	成果	課題
教科の目標	話し合いの成立 (全堂発表の)機をねらうやうな話し合い Q 机整理、敬語話す 話し合いし方 福山市立小町小学校	よとめる(共通相違点)でかい 意見分けたところの決断 ICTでメモ(観客Xロイノ) →話し手Bがめんどくさい 話し合いよりやり Q 話し合い後の振り返り →次の話し合いへ活かす
学校教育目標	①テキストマイニングが →全員の意見よこめて みえる	Q ICT使いますか? →話し合い△ 観客の
研究テーマ	見えてくる	Q うまくいかなかった 意見もなく ・意見メモに気づかなくて
目指す子ども像	見えてくる	
今後に向けて	Q 理由をあとで出さず、	
後日話します！		

成果	<本時の目標※1等> ・「救命ボートにもちこむものを班で3つ決める」というテーマに沿って、発言したり質問したりしながら、班ごとの結論をまとめることができた。
	<学校教育目標※2・研究テーマ※3・目指す子ども像（思考力向上チーム）※4> ・学習の目標を達成するための話し合いを行うための工夫があった。（話し合いのテーマ・目的をあえて明確にしない、敬語を使って話す、ICTの活用など） ・話し合いのふりかえりの場面でテキストマイニングを活用し、学習をまとめる際の視覚的支援とした。
課題	<本時の目標等> ・複数出た意見を共通点や相違点に沿って整理することが難しかった。 ・無人島から脱出するのか、無人島で生き延びるのかについてテーマが定まらないままだった。
	<学校教育目標・研究テーマ・目指す子ども像（思考力向上チーム）> ・ロイロノートを活用しながら話し合うことが難しかった。話し手ではなく、聞き手（観客）側の学習支援としてICTを活用した方が効果的かもしれない。
今後に向けて	・より一層学習効率が上がるタイミングでのICTの活用場面の検討。 ・限られた時間の中で、質の高い授業を展開するためのICTの活用。 →グループ内での役割分担（記録係など）。「共有ノート」の活用。

※1 本時の目標：話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。

※2 学校教育目標：自立・貢献

※3 研究テーマ：探究的・対話的で自ら学びを深める授業の実現

※4 目指す子ども像：正解のない「問い」へ果敢に挑戦し思考する生徒（思考力向上チーム）